

生き方に悩む現代人は多い。すがるように自己啓発の本を読みあさっても、自分の生きる軸を見つけ出すのは難しい。どうすれば「自分迷子」を脱することができなのか。中国古典の論語から人間力を磨く言葉を伝えている歴史研究家の春香さんに聞いた。



歴史研究家 春香さんに聞く

春香さん 歴史研究家。小学校6年生で横山光輝氏のマンガ「史記」に出会い、中国史のスケールの大きさや偉人の思想にひかれて歴史研究を始める。古代中国の偉人を描いた宮城谷昌光氏の小説を中学生の時から愛読し、最近では「キングダム」もお気に入り。

のんびりマイペースな性格で「おっちょこちょいで天然」と言われることも。子供っぽさと老成された感性をあわせ持った親しみやすい人柄。

ビジョンに「中国古典の知識を提供して、思いやりが溢れる心穏やかな社会をつくる」を掲げる。人間力を磨く言葉をTwitterなどで発信中。

中国史や哲学を学ぶ中で現代に通じる論語の教えに注目。「生涯役立つ人間力を論語から学ぶ」をモットーに、働き盛りの会社員に論語の思想をやさ

論語の知恵ポップに届け

「春香さんは中国古典から知恵を引き出して現代に伝えようとしています。どうしてなのでしょうか」

「私は『生涯役立つ人間力を論語から学ぶ』というテーマで、迷いの多い現代の人に論語のメッセージを伝える活動に取り組んでいます。中国史や哲学が好きで、長年学び続けてきました。その中でもなぜ論語かといえば、論語にはビジネスに通じる考えが多くあり、読んでい

る経済人もたくさんいるからです」

「私を含めて迷っている人は多く、芯がなくてブレ続けていることを悩んでいる人はたくさんいます。例えばアドラー心理学など欧米の哲学や自己啓発本に答えを求めるのもいいのですが、それだけだと何か足りないような気がします。中国の古典は古くから多くの日本人が影響を受けてきた自己啓発本です。そこから今生きる人に言葉や知

恵を伝えていきたいと思っています」

「中国古典とはどのように出会ったのですか」

「小学校6年生の時に、父が買ってきてくれたマンガがきっかけです。横山光輝さんの「史記」でした。もともと日本史が好きだったのを父が見てくれていたのです。そのマンガがとても面白くてはまっていきました。中学生の時には宮城谷昌光さんの小説に出会いました。

日本史にはない中国史のスケールの大きさに惹かれましたね。私自身、もともと難解な言い回しが好きなタイプだったこともあって余計にハマりました。小説や漫画から学んでいたので、学校の漢文テストも白文だけで分かる問題もありました」

「中国古典には多くの言葉が出てきます。特に好きな言葉はなんでしょうか」

「『温故知新』が好きですね。私たちがいま仕事や対人関係で悩むことは、実は過去の先人も全く同じところで悩んでいたのです。悩んだときに論語の本を開くと、的確なアドバイスが返ってきます。先人や古典から学び、今の自分に取り入れていきたいと考えています」

「『荀日新、日日新、又日新』（まことに日に新たに、日々に新たに、また日に新たなり）も好きです。日々気持ちを新たにしてお過ごしという意味で

す。古代中国の名君、湯王がこの言葉が刻まれた水盤で毎日顔を洗っていました。偉い人でも毎日鍛錬を欠かさないということ、私ももつとやらないといけないという気持ちになります」

「ビジョンを『中国古典の知識を提供して、思いやりが溢れる心穏やかな社会をつくる』としています。どういうメッセージを込めているのでしょうか」

「社会人をしていみると、私たちはどうしても目の前の仕事に飽きてきたり、やる気が出なかつたりします。頑張ろうと思ってもモチベーションが上がらないときもありますし、がんばってもうまくいかない時もあります。そういう時に、近くに相談できる人や、アドバイスしてくれる人がいたらいいんですけど、なかなかそうもいかないのですよね。どうしたらいいのか考えると、先人や歴史、古典か

ら考えをうまく取り入れることだと思つたのです。古来の知恵は、対人関係や仕事にも生かしていけると思っています。私も含めて迷っている皆さんが一步踏み出せるような言葉を一緒に学んでいきたいと思い、このビジョンを設定しました」

「『思いやりが溢れる心穏やかな社会』とはどのような社会を思い描いているのですか」

「人に対する想像力を働かせた社会になつてほしいという思いです。自分のことばかり考えている人が、私含めて多いように思います。相手の気持ちを考えずに話をしたり、相手が自分と違う価値観で生きているのに自分の価値判断や物差しで悪口を言つたりとかですね。そういう場面を見ているとちよつと悲しく感じます。思いやりがもつとある社会だったらいいのになと思つています」

「相手への思いやりがある上で、やっぱりちゃんとその生活の糧もあつて、未来に対する漠然とした不安もなく、目の前のことに感謝もできることが理想です。地に足がついて、感謝と思いやりを持った人間になることが最終的に到達したい人です。つまり、自分の内側のことと他人に対する思いやりの両輪があつたらなと思つています。このビジョンはちよつと壮大すぎて、すこしくさいことをいつているなという感じもします。それでもやっぱり大事なことだと思つています」

「『知識を提供する』ことは得意なことですね」



中国古典に小学生の頃から親しんできた

好きなことがわからず悩んだ時期もあった



「おそらく得意なのだろうと思います。（自己理解プログラムを主宰する）八木仁平さんから、何か困っている人にその解決方法を具体的に提案しながら問題解決してあげることが得意なことだと言われました。私は

具体性がないと嫌で、自分自身が地に足がついていることが大事だと思っています。自分の強みを分析するストレングスファインダーでは、回復思考がトップクラスにあります。おそらく回復思考の特徴の、問題点を見つけたら、もつとこうしたらいいのにといった資質が出ているのだと思います」

「提供する知識は、最初は現代社会や世の中一般のことが良いかなと思いました。大阪では辛坊治郎さんの存在ですね。現実的な知識です。いろいろと考えて論語にしたのはニッチで他の人がやっていなかったからです。また、もともと中国の歴史が好きでユーチューブでも哲学

や人としてのあり方や考え方についての動画を見るのが好きだったからです。ただ、やりたいこともまだ検証段階ですから、変わっていてもいいと思っています」

—価値観はいかがですか

「私は、『修養』『尊重』『自立』『思いやり』『心穏やか』という価値観をそれぞれ大切にしています。『自立』というのは、やはり中国古典につながるころだと思っています。自立できたら、思いやりができ、そして心穏やかになるという順に考えています」

—春香さんはビジョンや価値観を見出す前は、どのような迷いがあったのですか

「自分の好きなことが分からず、5年間、転職を繰り返して、副業をつまみ食いしてはすぐ辞めるを繰り返していました。お

金が欲しいとか、これやったら儲かるといったことでしか仕事を選んでいませんでした。外からの承認欲求ですね。もともと好きなことを仕事にはできないという思いもあったのかもしれない。上司が気に入らないとか働き方が気に入らないとかいうことで、仕事を変えていました。5、6回は変えました。旅館やホテルといったサービス業です」

「仕事はしんどくなくて、新しいことを学べる方がいいなとは思っていました。慣れてきたら飽きるんです。学習欲だと思うんですけれど、大体のことがわかってきたら、また別ジャンルとか、同じジャンルでもまた別部門とかに行きたくなっちゃうんですよね。最初の仕事は4年、次は3年やりましたが、1番コロナ変わったの結婚している間ですね。女性なので家事と仕事のバランスが取りやすいようにと思っていました。仕事でも正社員だったら働きすぎかなとか、いろいろ試行錯誤していました。旦那さんにはまた辞めるのって言われましたけど。目の前のことが嫌だからやめることを続けていました」

—一番大変だった経験はなんですか

「ドコモショップのスタッフをしていたときのノルマですね。タブレットやサービスを売ってました。売りたいくないものを売るということがすごいストレスでしたね。やっぱり自分の考えと行動が一致しているということが大事じゃないかなと思います。もうだからやりたくないことはしないほうがいいと思っています。人と話すのも別に嫌いじゃなくて好きなんですけ

ど、やっぱり1人でやる仕事の方が好きだということに気づきましたね」

「特に好きなリーダーは誰ですか」

「まず劉秀が好きですね。中国の皇帝って始皇帝のようにめっちゃ強くて怖いといったようなイメージがあると思います。劉秀はそうではなく、めっちゃめちゃ謙虚で皇帝になる気もなく、むしろ兄さんが皇帝になれるように自分が弟として頑張っていたタイプなんです。前漢が減んでもう一回立て直そうとした時も、お金がなさすぎて馬が買えなかったから代わりに牛に乗って出陣したというエピソードがあります。それがまた慎重な劉秀にぴったりだということ

で逆に注目されるといったこともありました」

「劉秀が読んだ歌があります。」

『仕官するなら執金吾、妻を娶らば陰麗華』という歌です。普通の都の警備員になって、地方で人気のある美少女と結婚したいということ。まさか自分が皇帝になると思っていなかったけども、最終的に皇帝になって、陰麗華とも結婚します。陰麗華はすごい賢く、劉秀は一途に陰麗華だけを愛し続けました。慎重で真面目で勉強家で奥さんを大事にするという、なん

と素晴らしい皇帝なんですよ」

「また許すということもできる器の広い人で、前日まで戦っていた敵もちゃんと降伏したら今は忠誠心や能力を見るからと言います。分け隔てなく登用したというのです。武将は普通、1回負けたら首にするのですが、劉秀はちゃんと許してあげた。最終的に勝てば良いからと失敗を



偉人のエピソードは数知れない

で産んだ子供を次の王様にしたいからというだけでもといった国を追い出されたんです。それから十九年間もずっと旅をして、刺客に殺されそうになりながら、最終的にはその刺客とも和解します。十九年の旅で自分の器を大きくしたという感じで、自分のもっていた国に帰ってき、国のリーダーになりました。そして中国のたくさんある国の中でもトップになったのです。覇者ですね」

許しました。中国史1、2を争う名君と呼ばれています」

「他はいかがですか」

「呂不韋も好きですね。呂不韋はもともと商人で根っからの成り上がりです。商人なので、ここに投資したほうが良いと言いたことを見極めることができる人です。商人が政治家になることが当時ありえないことでした。商人でも成功する人だったのに、政治家になったのは何か志があったのかなと思うんです。始皇帝もやきもち焼くんです。最終的に始皇帝に追い詰

められて自殺をするんですけども。失脚した時も各国のたくさんの要人が挨拶に来るくらいの人物でした」

「重耳も好きです。人柄が好かれるタイプで、お尻が重いのですが、人から放って置けないと思わせる人物でした。ある国の王子様だったんです。お父さんが美女に溺れて、美女の策略で産んだ子供を次の王様にしたいからというだけでもといった国を追い出されたんです。それから十九年間もずっと旅をして、刺客に殺されそうになりながら、最終的にはその刺客とも和解します。十九年の旅で自分の器を大きくしたという感じで、自分のもっていた国に帰ってき、国のリーダーになりました。そして中国のたくさんある国の中でもトップになったのです。覇者ですね」

「ブログやツイッターでの情報発信を始めています。やってみたいかがですか」

「アウトプットするためには、やはり上質なインプットが必要だということを痛感しています。アウトプットし始めて、自分では中身がないと感じています。論語は孔子がおっしゃった言葉ですが、孔子はものすごい苦労や挑戦をされました。ただ言うだけではなくて、実践をしてきた人なんです。だからこそ、言葉の重みがあるのだと思います。私は自分の発信する情報にどう重みをつけていけるか

を考えています。自分も実践してる側になるためには、やっぱりインプットが必要だと思います」

「上質なインプット」とはなんですか

「やっぱり実践学ですね。自分で実践したもののや体感したものが1番上質だと思うのです」

「たとえばファッションアドバイザーのMBさんと言う方がいらつしやいます。ホリエモンともコラボしている人です。その人がSNSなどで『ユニクロのこれがオススメです』と発信すると、全国のユニクロから在庫が消えるくらいファッション業界で影響がある人なんです。その方はやっぱり洋服が好きで、バイヤーなどの経験があります。それだけでなく、ユニクロの服の生地質感、素材やサイズ感などを現地に足を運んで研

究してメルマガを書いていきます」

「MBさんが洋服を直接見にくように、私は現地まで足を運ぶということがまだできていません。自分が挑戦した上で発信していきたいと思っていますが、自分はいま挑戦と発信の同時並行をしていて、どうしても未熟な自分のままでアウトプットしないといけません。ハードルが高いことをしているなと感じています」

「中国古典はこれから仕事をしていく中でどのように活用していきたいですか

「自分のビジネスに挑戦していく過程で迷ったりつまづいたりしたときに、論語をパラパラと開いてヒントになるコトバを復習していきたいです。『よし、頑張るぞ!』『今、自分は良くない方向に進んでいるからストップしよう』『ちよつと落ち

着こう』といったように気持ちを持ち直したり反省したりしたいですね」

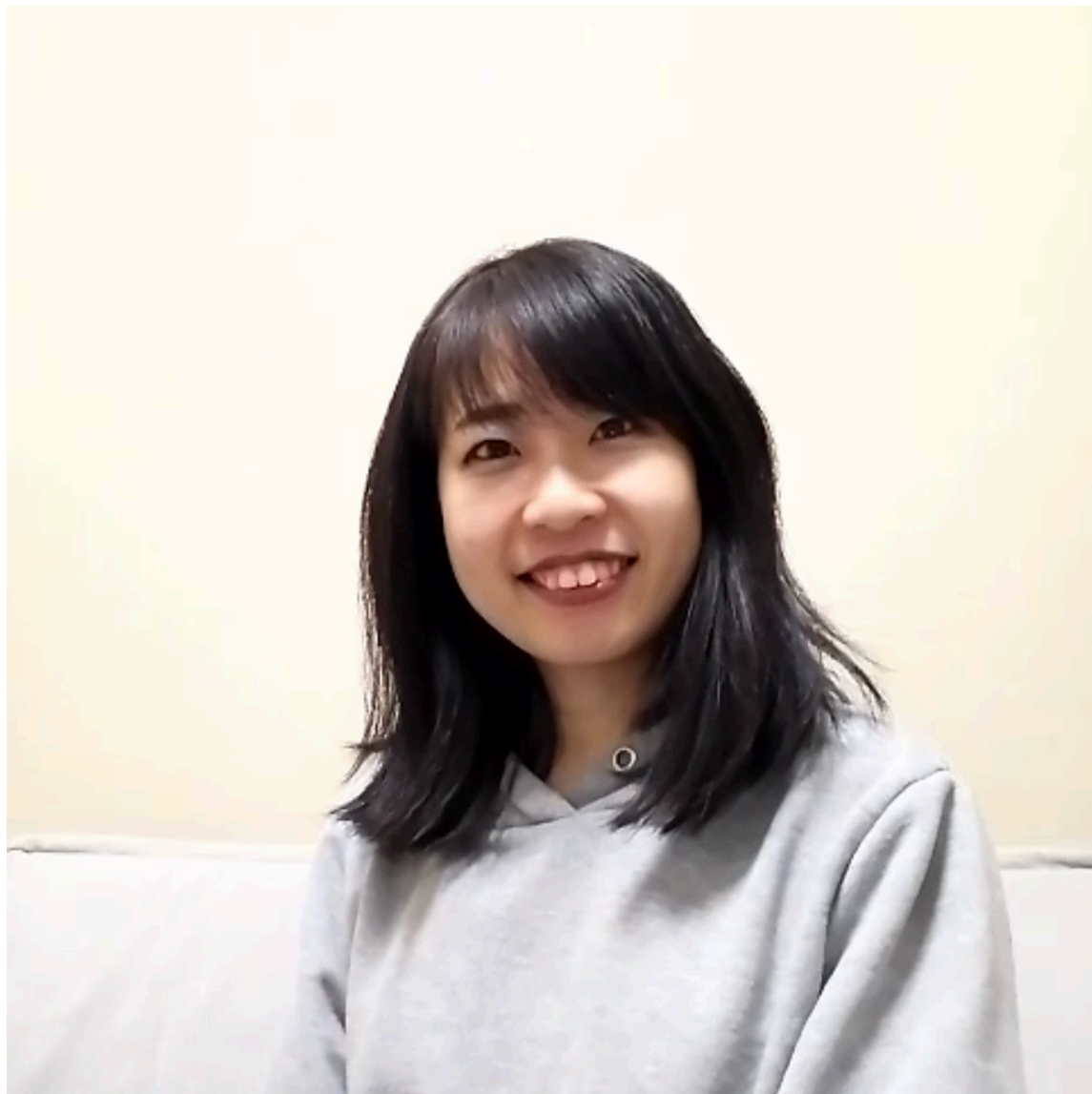
「どのような人に論語の言葉を届けていきたいですか

「私が届けたい人は、男女三代から五十代のいま一生懸命仕事頑張ってる会社員を想定しています。親しみやすく発信していきたいですね。ツイッターの背景画像も可愛いピンク色にしたりといったところから入っています。女性でも男性でも親しみやすさが大切なのは一緒ですよ」

「論語や中国古典の集まりはすごく年齢層高いんです。勉強会なども昔ながらの古典を開いて声に出して読むというもののしかありません。そうではなくて、今っぽいツイッターなどとコラボさせて発信していったら、もうちよつとポップになるのではないかなと思っています。ポップな論語にしたほうが親しみがあって伝わるのではないかなと思っています」

「今後はどのようなサービス提供を考えていますか

「メルマガを考えています。Q&Aで読者とテキストでつながるようなやり方をしてみたいと思っています。私が読んでよかった今週の1冊といったようなビジネス本を紹介することもしたいです。論語関連のこんな場所に行きました、というこもやってみたいですね。論語にゆかりのある湯島聖堂や、来年NHK大河になる渋沢栄一の生まれ故郷の取材など、現地に行ってみたいですね」



「中国古典は心の拠りどころ」と語る

「また悩みに対して具体的にどうしたらいいのかというところまで落とし込んで解決策を示すとビジネスマン的にはウケが良いじゃないかなと思いますね。スマホの待ち受け画面にできることわざと一緒に送るといったアイデアも考えています」

「ゆくゆくはリアルに対面での論語塾もしたいと思っています。先日、子供塾をやったんですけど、実際に子供と一緒に論語の言葉を読み上げるっていうのはすごく良かったですね。そういうふう定期的に何か塾だったりをしたいなと思っています。子供と一緒に読んでいると心が洗われるようでした」

「これから課題をどう考えていますか」

「やっぱり時間の使い方です。副業として始めるので自分の時間がなくなるのは承知の上です。日に2、3記事くらい書けるようになりたいです。やっぱり1人で全部しないといけませんから、メルマガの立ち上げやワードプレス導入などといったことを考えていたら、時間が足りませんね。アウトプットしないことにはお金はいただけませんから。インプットもしていく時間を考えたら、やっぱり時間が少ないなと思いますね」

「独立は1年以内にはしたいと思っています。中国古典だけではなく、日本史も含めて発信していきたいと思っています」

「最後に、改めて春香さんにとって中国古典とはなんですか」

「心の拠り所ですね。人って迷ったときに最終的に何かに頼りますよね。心の寄りどころに

するものが仏教だったりキリスト教だったりいろいろあると思うんですよ。哲学とか道徳的な方面での心のよりどころになるのが中国古典や論語だと思っています。宗教的なものと、神といった絶対的なものがありますよね。中国古典や論語は、ただの1人の人間として始まって、一生懸命努力をしたというのがすごくわかります。私はそっちの方が好きですね。人間味があるからです」

「孔子には美女に誘われてデートに行っちゃったっていう話も

あるんですよ。美女とデート行つた帰りに、弟子がそれを見かねて『先生ショックです』って言われるんです。すると孔子は『僕が美女とデートに行くのがほんとは悪い事だったから、天は我を滅ぼすだろう』と言うんです。苦しい言い訳だよね、と思いますよね。そんな人間味あるエピソードもたくさんあります。私の場合は専門家ではありませんから、そうした人間味のある話も含めて伝えていきたいと思っています」

コーチの目

「人間味ある偉人」の伝え手に

春香さんのインタビューでは、古代の偉人を語るときの生き生きとした語り口がとても印象的でした。偉人というと、どこか近寄りがたい聖人君子といったイメージを持ちがちです。しかし春香さんは、単なるすごい人という話に終わらせず、「美女とデートする孔子」「牛に乗る劉秀」「お尻の重い重耳」など、親しみやすいエピソードを交えて紹介してくれました。二千年以上前の偉人たちが、身近にいるような人のように感じ、彼らの考えや言葉をもっと知りたいと思わせてくれました

春香さん自身も親しみやすく朗らかなお人柄です。お話からは、人生哲学への興味と同時に、経済面など現実をきちんと踏まえた考えをお持ちだということも節々に伝わってきました。哲学と現実感覚を持ち合わせている方だと感じました。

春香さんはこれからどのような仕事人になっていくのでしょうか。論語や中国古典と聞くと、やはり硬くて小難しいといった印象を持つ人も少なくないと思います。しかし私も春香さんの話で改めて興味を持ち、宮城谷さんの本などを何冊か読むと、的を射た実に簡潔な言葉が並んでいると感じました。春香さんは私に話してくれたように、論語の敷居を下げて、完璧ではない人間味ある偉人の伝え手になっていかれるのではないかと思います。

新型コロナウイルス流行を機に、生き方や働き方に悩む人は増えています。変化の時代にこそ、激動の古代を生き抜いた人の知恵が詰まった中国古典は生きる光を与えてくれるのでしょうか。「温故知新」の言葉を親しみやすく私たちに届けて頂きたいと願っています。（聞き手は取材コーチ すけさん）